

地対協コーナー

先月5月22日(日)、日本医師会館にて「日医かかりつけ医機能研修制度」の応用研修会が開催されました。同制度は、地域住民から信頼される「かかりつけ医機能」のあるべき姿を評価し、能力を維持・向上させる取り組みとして、今年度から開始された事業です。

当日は、「かかりつけ医の倫理」をはじめ各分野の講義がありましたが、最後の症例検討において、アドバンス・ケア・プランニングの紹介がありました。

かかりつけ医は生活習慣病の管理を通じ築かれた信頼をもとにACPについて話し合うことも可能であるとの内容でした。

さて、今号お届けする「終末期医療のあり方検討専門委員会」の活動ですが、課題の一つに効果的な普及啓発が挙げられます。委員会委員の総意としては、地域包括ケアシステムの中心となる患者自身の価値観や思いを関係者で共有し、より良い医療・ケアの環境づくりに努めたいと思います。

活動や運営にあたり、皆さまのご要望やご意見などがございましたら、遠慮なく、事務局までお寄せください。また、過去の委員会活動などは、地対協ホームページ(<http://www.citaiky.jp/>)へ掲載していますので、アクセスをお待ちしております。

○終末期医療のあり方検討専門委員会

日時：平成28年4月25日(月) 19時30分

場所：広島県医師会館401会議室

委員長：本家 好文

平成27年度に実施のACP啓発モデル事業について、実施6地区からの報告と、今後の普及にあたっての課題や効果的な啓発の方策について意見交換を行った。普及啓発活動の一環として、5月29日(日)、広島県医師会館にて医療・介護・福祉・行政関係者を対象にモデル事業報告会を開催する。

報告・協議事項

(1) 手引き配布状況について

今年度改訂した第2版の手引きは、平成27年12月から会議当日まで12,436部配付している。広島県医師会速報附録でも過去3回出しており、初版から全て累計で約48,000部にのぼる。

(2) 手引き・心づもり等資料に関する申請について

手引き改訂後、手引きの使用・引用等に関する問合せ件数が増加したため、本年2月より地対協ホームページに問合せフォームを設け、対応

にあたっている。これまでに7件(県内2件、県外5件)の申請があり、内容としては、学会での配付・使用、発行媒体への引用などであった。

(3) モデル事業実施報告と報告会の開催について

昨年度6地区(呉市、福山市、因島、安芸地区、佐伯地区、広島市東区各医師会)で実施のモデル事業報告と事業検証を行った。

実施・啓発方法やアンケートの結果については、概ねいずれの地区も同様の結果であったが、独自の取り組みとして、ACPの実践例を収集している地区や民生委員と連携した普及を行っている地区、在宅での今後の方針決定の際、活用している地区などがあつた。

今後の課題として、医師への普及啓発や実務的な運用の流れの検討、医療従事者に加え、民生委員や地域包括支援センター、女性会や自治会など地域を巻き込んだ啓発、さらには普及啓発に必要な知識・情熱をもった人材の育成などが挙げられた。

最後に、5月29日(日)、モデル事業の実施報告会を開催し、今後の方策についてディスカッションを行う予定である旨告知した。